

千葉県のトンボ（イトトンボの仲間）

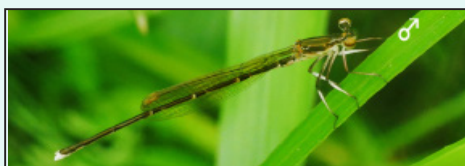
夏の水辺を彩るトンボ。中でもイトトンボの仲間はほっそりとした体で繊細な印象ですが、実は動物食で優秀なハンターでもあります。出現場所に限られる種が多いことからなじみの薄い方も多いかもしれません。今回は千葉県の希少種を含む様々な美しいイトトンボの仲間を紹介します（写真右下は撮影者の団員番号、種名の右の「県」は千葉県のレッドデータブックのランクです）。



ホソミオツネトンボ

全長 33 ～ 42mm

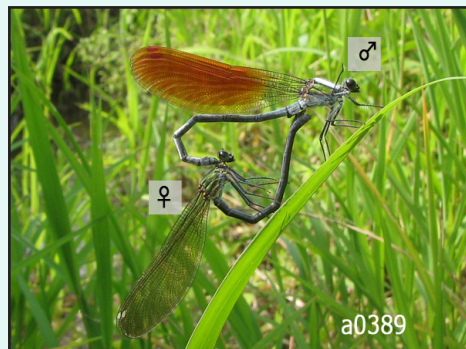
成虫の状態越冬するので越冬（オツネ）と名づけられた。♂は成熟すると青くなり、♀は水色や褐色が強い個体がいる。春先に飛翔。



オオモノサシトンボ 県：A

全長 42 ～ 51mm

利根川周辺や乾草沼等の限られた地域に分布。オスは成熟するとコバルトブルー、メスは黄緑色になる。抽水植物が繁茂した場所をよく飛ぶ。



ニホンカワトンボ

全長 47 ～ 68mm

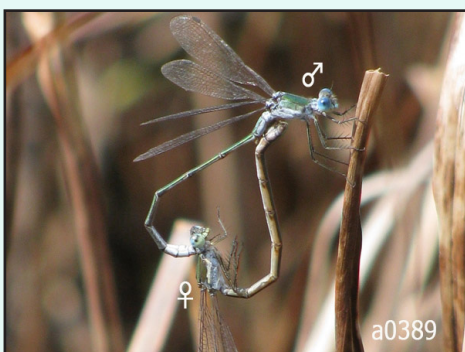
流水によくみられるトンボ。全身金属光沢で大型。翅は透明や褐色など複数の型が存在。房総には翅が白い個体群が存在するが数は少ない。



ヒヌマイトトンボ 県：A

全長 29 ～ 34mm

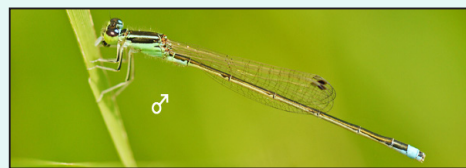
茨城県の潤沼で発見されたことから名づけられた。水生植物が繁茂する汽水域を好み、分布は局所的。♂の背部に 4 つの黄緑色の点がある。



アオイトトンボ 県：C

全長 34 ～ 48 mm

全身金属光沢で複眼は青い。成熟すると胸部に白粉をおびるので他のアオイトトンボと区別できる。翅を半開きにして休む。



アジアイトトンボ

全長 24 ～ 34mm

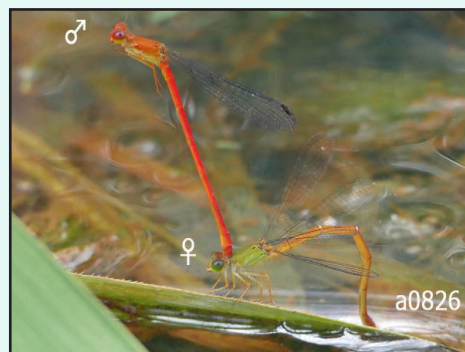
♂は胸部が緑色で、腹部の末端が青い。♀は成熟すると赤から緑に体色かわる。アジアイと名がつくが外来種ではない。よく見るイトトンボ。



モートンイトトンボ 県：B

全長 22 ～ 32mm

低湿地や湿田等の泥深い場所を好む。♂は成熟すると腹部の末端がオレンジ色になり、♀は成熟すると全身がオレンジ色から黄緑色になる。



ベニイトトンボ 県：A

全長 32 ～ 45mm

♂は成熟すると全身が赤色になり、♀は複眼や胸部は黄緑色、腹部は黄色になる。他の赤くなるトンボと異なり羽化した時から体色が赤い。



キイトトンボ 県：C

全長 31 ～ 48 mm

名前の通り全身黄色のトンボで区別は容易。♀は腹部が黄色いタイプと緑色が強いタイプがみられる。

新連載！古典文学と里山の生きものたちの世界

第一回 ゴイサギ *Nycticorax nycticorax* ペリカン目サギ科

詩人 大島 健夫

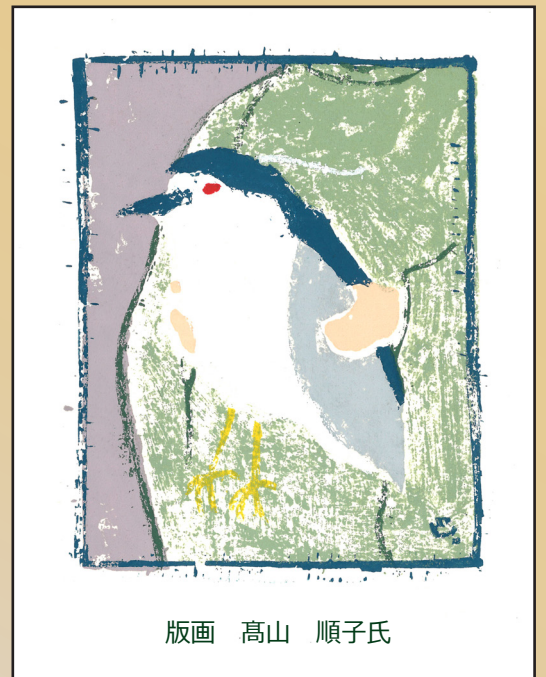
日本の古典文学には、様々な生きものたちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生きものとかわり、その姿に何を見ていたのでしょうか。この連載では、今年度から生物多様性センターに嘱託職員として勤務している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、^{いのち}生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

短い首と脚。ぽっちゃりした体つき。濃い紺色の背中と頭。後頭部の冠毛。美しくもユーモラスな姿をしたゴイサギは、実は大変由緒正しい鳥でもあります。その名の「ゴイ」というのは「五位」の位階^{いはい}のことで、それは今を去ること千年以上前、時の醍醐天皇から直接に賜ったものなのです。

『大鏡』や『源平盛衰記』の他、『平家物語』にも、その経緯が記されています。ある日、醍醐帝^{おおかみ}が神泉苑^{しんせんえん}に遊びにいくと、池のほとりに一羽の鷺がいたので、身の回りの役人^{りんげん}を呼んで「捕まえてきなさい」と命じました。役人は「そんなの無理だよ」と思ったけれども、命令なので仕方なく捕まえにいくと（原文^{*1}）には、「いかでか取らんと思ひけれども、^{りんげん}綸言なればあゆみむかふ」と、その心情が記されています）、鷺は羽繕いをして飛び立とうとしていたので「^{せんじ}宣旨（天皇の命令）である」と呼びかけたところ、なんと鷺は飛びもせずその場に平伏してしまっただけです。それを抱えて醍醐帝のところへ持っていくと、帝は喜び、「宣旨に従うとは神妙である」ということで、鷺に五位の位階を与えたばかりか「今日より後は鷺の中の王たるべし」という札まで首にかけて放してやった・・・というのです。

平安時代の官制における五位というのはなかなか大したものので、六位以下は「地下人」と呼ばれ、基本的に昇殿（内裏の中の清涼殿の殿上の間に参内すること）もできないのに対し、五位より上の人間はそれが許される立派な貴族です。そして、鷺を捕まえていった役人は六位でした。この故事をもとにした能『鷺』では、役人も五位に昇進したことになっていますが、実際のところはわかりません。果たして彼は鳥に官位で抜かれてしまったのでしょうか。それとも鳥を捕まえた功績で鳥と一緒に昇進したのでしょうか。どちらにしても、そこには無邪気な権力者のおかしみと、実直な部下の哀愁が漂っています。

^{*1} 平家物語（龍谷大学本）巻第五 朝敵揃



版画 高山 順子氏

＜これからの季節に観察できる生きもの＞

○調査対象種：セミの仲間、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、サワガニ、ヤマユリ、オオフサモ（特定外来生物）

○調査対象種以外（種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします）

* 渡りのシギ・チドリ類、サシバなどの猛禽類

* 各種昆虫（とくにトンボ・チョウ）、両生類、爬虫類など

* 希少生物（生息・生育数が減少している生物）や、外来生物の報告も受け付けています。

＜平成 30 年度 第 1 回現地研修会＞ in 畔田谷津（佐倉市）の報告

佐倉市畔田谷津において 2 日にわたり現地研修会を開催しました。昨年の研修会では雨で中止となりましたが、今年は天気に恵まれました。2 日で 72 名の団員と新緑の谷津を歩きながら、昆虫や鳥などたくさんの生きものを観察しました。

また、近くを流れる上手線川^{かみたぐりがわ}では罟によるカミツキガメの捕獲を見学しましたが、2 日とも捕獲されませんでした。カミツキガメの解説を皆さん熱心に聞いていました（右写真）。

